



SEI  
ROKPPONGI  
CASE  
セイ・カーゼ  
六本木  
六軒

Michele De Lucchi

2024.9.20 Fri. 10.14 Mon.  
(Special opening hours)

六本木六軒：ミケーレ・デ・ルッキの6つの家

会場   21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3	Venue   21_21 DESIGN SIGHT Gallery3
開催時間   10:00-19:00	Opening Hours   10:00-19:00
<small>六本木アートナイト特別開催期間</small>	<small>Special opening hours for Roppongi Art Night:</small>
<small>8月27日(金)、28日(土) 10:00-22:00</small>	<small>September 27 (Fri.), 28 (Sat.) 10:00-22:00</small>
<small>入場券別 入場無料 企画   ミケーレ・デ・ルッキ</small>	<small>Closed on Tuesdays Entrance Free Project by   Michele De Lucchi</small>
<small>特別協賛   株式会社 ニコニコデザイン事務所 協賛   UniFe</small>	<small>Special Sponsor   Myoko Ono&amp;Suzuki Technical Sponsor   UniFe</small>

GALLERY 3  
21\_21

9月20日(金)から10月14日(月・祝)までの期間、21\_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3では、現代イタリアを代表する建築家・デザイナー、アーティスト、ミケーレ・デ・ルッキの展覧会、「六本木六軒：ミケーレ・デ・ルッキの6つの家」を開催します。

## 展覧会概要

---

ミケーレ・デ・ルッキは建築家として先鋭的な活動を続けるとともに、20年以上にわたって手仕事への情熱から創作活動に取り組み、新たなフォルムを探求し続けてきました。マテリアルの選択から仕上げにいたる、数多くのプロセスにおける絶え間ない実験。その芸術を生成させる力は同時に、彼が建築の新たな概念を思考・定義する原動力なのです。

六本木六軒：ミケーレ・デ・ルッキの6つの家」は、デ・ルッキの創作活動の一つである彫刻「ロッジア」シリーズより、すべて初公開の作品によって構成される展覧会です。

発端は2018年。21\_21 DESIGN SIGHT で交わされたデ・ルッキと三宅一生との対話をきっかけに始動した本展は、ギャラリー3の空間のためのプロジェクトであり、会場には木製3点、ブロンズ製3点の「ロッジア」=6つの家（セイカーゼ）と名付けられた彫刻作品が、ヴィクトル・コサコフスキー監督による制作過程の映像とともに展示されます。デ・ルッキは、会場のある六本木の地名が、かつて存在した6軒の武家屋敷に由来するという一説を知り、6つの家の彫刻作品との間に偶然の一致を見出し、本展を「六本木六軒」と名づけました。

6つの家は、アセチル化処理（木材を安定させ、耐水性、耐朽性等を高める酸化処理）を施したオーク材の台座に置かれ、そのディテールのデザインもデ・ルッキが手掛けました。

「木とブロンズはそれによって人類が文明を形成し、人間性を成長させてきた最も古くて高貴なマテリアルなのです」使用したマテリアルには人類学的な意味があるとデ・ルッキは語っています。

「ロッジア」（イタリア語で「涼み廊下」の意）の制作のなかで探究したのは、「間（あわい）の空間」の概念。それは、家の内と外をつなぐ空間であり、内で営まれる生活と外の環境が融合する場です。「ロッジア」の壁には、日本家屋の仕切りである障子と、ヨーロッパの住居における窓のフレームを想わせる要素が編み込まれています。それは、日とイタリアの伝統に渡す架け橋と呼べるでしょう。本質的に異なりながらも、職人の手仕事に対する深い敬意を共有している双方の文化は、互いを融合させることでより完璧なものになるとデ・ルッキは考えています。

デ・ルッキにとって「ロッジア」は、人が生きる空間をイメージするための自由な旅のようなもの、パッケージ化された建築の概念から離れ、外の世界を採り入れる透過性のある環境の探求です。

『「ロッジア」』は、伝統的な日本の茶室を想わせると同時に、建物の内と外との間に連続的な空間を作り出そうと試みる、現代の先端建築を想起させます。自然の驚異的な力と人間のはかない本質を共存させるため、建築と人と自然との関係はますます重要なものとなり、私たちは生き方の新たなふるまいを模索する必要があるのです。

本展は、実在する場所について考える一つの方法であり、人々が他者と、都市と、あるいは自然と共に生きる助けとなる、健全な建物とはなにかを模索する場なのです。

---

展覧会名 | 六本木六軒：ミケーレ・デ・ルッキの6つの家

会場 | 21\_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3

会期 | 2024年9月20日（金） - 10月14日（月・祝）

開館時間 | 10:00 - 19:00 火曜休館 入場無料

\* 六本木アートナイト特別開館時間：9月27日（金）、28日（土）10:00 - 22:00

企画 | ミケーレ・デ・ルッキ

特別協賛 | 株式会社 三宅デザイン事務所 技術協賛 | UniFor



Photo by Giovanni Gastel

## ミケーレ・デ・ルッキ Michele De Lucchi

1951年イタリア、フェラーラ生まれ。

1970～80年代にかけて、前衛的なデザイナー集団「アルキミア」、「メンフィス」の中心的人物の一人として活動。1988年から2002年まで「オリベッティ」のデザインディレクター。世界的ベストセラーとして知られる照明器具「トロメオ」(Artemide)のデザインで、1987年コンパッソ・ドーロ賞を受賞。ヨーロッパの有名企業の家具デザインを手がけるとともに、文化施設、インダストリアル、住宅など多様な建築プロジェクトを実現する。

2000年、アゼリオ・チャンピ大統領(当時)より「イタリア共和国オフィサー」の称号授与。2001年、ヴェネチア IUAV 教授。2006年、キングストン大学より名誉博士号授与。2008年よりミラノ工科大学デザイン学部教授。国立アカデミア・ディ・サン・ルカ(ローマ)、アカデミア会員。2018年、建築誌「domus」の編集長。2022年、コンパッソ・ドーロ・キャリア賞受賞。2024年、アカデミア・デッレ・アルティ・デル・ディゼーニョ(フィレンツェ)、アカデミア会員。20年以上にわたり、ミラノとアンジェーラ(ヴァレーゼ県)の工房で、ドローイング、絵画、木彫のオブジェ・模型の制作に取り組む。これらの制作活動が、建築形態の本質を追求する原動力、職業上のプロジェクトのインスピレーションの源となる。2003年、パリのポンピドゥー・センターが彼の作品の多くを収蔵したほか、欧米および日本の主要な美術館がデザイン作品を収蔵。学際的なスタジオ、AMDL CIRCLEの創設者であり、そのヒューマンリスティックなアプローチが国際的に評価される。

AMDL CIRCLEは、建築、インテリア、デザイン、グラフィックなど、様々な分野で表現力豊かで戦略的なプロジェクトをクライアントに提供している。amdllcircle.com



「Loggia 387」ウォールナット材(2015) Photo by Michele De Lucchi

### 技術協賛 UniFor について

オーク材で作られた6つの台座によって、作品「ロジリア」の存在感はより際立ちます。この台座もミケーレ・デ・ルッキがデザインし、彼の活動を長年にわたってサポートしてきたUniForの職人が作成しています。UniForはイタリアに1969年設立(現Molteni Group)した、オフィス家具システムの開発・製造、カスタマイズデザインを手がけるワークプレイス・ソリューションの先端企業です。建築の文化的サポートを数多く手がけていることでも知られています。unifor.it

### Press contact

ご質問、取材・掲載等のご希望等がございましたら、下記プレス担当までお問い合わせください。

竹形 尚子(デイリープレス)

03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org